科目ナンバリング	U-LAS04 10011 LJ45						
授業科目名<英訳>	社会学II Sociology II			担当者所属職名・氏名	人間・環境学研究科 教授　柴田　悠		
群	人文・社会科学科目群	分野(分類)	教育・心理・社会(基礎)	使用言語	日本語		
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義（対面授業科目）
開講年度・開講期	2026・後期	曜時限	月3/火2	配当学年	全回生	対象学生	全学向

[授業の概要・目的]

柴田担当の全共講義科目「社会学」は、前期の「社会学I」と、後期の「社会学II」（本科目）がある。
「I」は、社会学の「主要学説の紹介」に重きをおいた「基礎編」である。
「II」（本科目）は、社会学の「生活や政策での応用」に重きをおいた「実践編」である。
（ただし、アクティブラーニングに適正な人数規模になるように、履修者数を制限しているので、学生の履修可能性を高めるために、「I」と「II」は内容が重複した部分も一部ある。）

以下は、本科目「II」の概要・目的である。

自分が生きているこの社会は、どのような「しくみ」で動いているのか？　この社会は、これからどうなるのか？　この社会で自分が「幸せに生きる」には、どうしたらいいのか？　この社会を「より多くの人々が幸せに生きられる社会」にするには、どうしたらいいのか？

社会学は、こういった問題に取り組むために（19世紀西欧を発祥として）築き上げられてきた学問である。したがって社会学は、現代社会を生きる私たち一人一人にとって、「生きる糧」になりうる。

そこで本科目では、社会学的思考法を伝授する。社会学的思考法とは、「社会現象を成立させている『構造とコミュニケーションの相互影響関係』に着目する思考方法」である。
本科目では、社会学の基礎研究や応用研究を紹介し、社会学的思考法のトレーニングの機会を設ける。そのことにより、受講生が自分の専門の研究や今後の日常生活において、必要に応じて社会学的思考法を用いて、専門研究をより豊かにしたり、今後の生活をより幸福なものにしたりできるようになることをめざす。その際、「実践編」として、社会学の「生活や政策での応用」に比較的重きをおく。

[到達目標]

社会学的思考法を用いて、現代のさまざまな社会現象や自分自身の人生・生活の背景にある「しくみ」（社会構造とコミュニケーションの相互影響関係）について、実践的な水準で考察できるようになる。

[授業計画と内容]

基本的に、以下の計画に従って講義を進める。ただし、受講者の状況などに応じて、順番や内容を変更する可能性がある（一部の回でゲスト講師を招いてゲスト講義をしていただく可能性もある）。

また、社会学的思考法を活用できるようになるために、「問いの共有」や「討論」などを行う。

第1回　これからの社会はどうなるのか
第2回　社会学の基礎（1）定義・意義・背景――PDF「社会学の基礎と応用」第1章
第3回　社会学の基礎（2）主要諸理論――PDF「社会学の基礎と応用」第2章～第5章5.1

社会学II(2)へ続く↓↓↓

社会学II(2)

第4回　社会学の基礎（3）資本主義と社会保障の起源（1）――PDF「資本主義と社会保障の起源」114～133頁
第5回　社会学の基礎（4）資本主義と社会保障の起源（2）――PDF「資本主義と社会保障の起源」134～149頁
第6回　小括討論
第7回　社会学の応用（1）幸福の社会学（1）――PDF「社会学の基礎と応用」第11章
第8回　社会学の応用（2）幸福の社会学（2）――PDF「社会学の基礎と応用」第12章～第13章
第9回　社会学の応用（3）社会保障の効果（1）――PDF「子どもの貧困と子育て支援」
第10回　社会学の応用（4）社会保障の効果（2）――内閣府「選択する未来2.0」講演資料（PDF配布）
第11回　小括討論
第12回　社会学の応用（5）AIがもたらす未来（1）――PDF「〈不可知性〉の社会」244～260頁
第13回　社会学の応用（6）AIがもたらす未来（2）――PDF「〈不可知性〉の社会」260～272頁
第14回　総合討論――これからの社会をどう生きるか、どう変えるか
第15回　フィードバック（詳細は授業中に説明）

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

「ほぼ毎回の確認テスト」（50点）と「毎回の討論におけるパフォーマンス」（10点）と「毎回の小レポート」（40点）により、到達目標の達成度について評価する。

[教科書]

使用しない
オンラインで講義資料を配布する。

[参考書等]

（参考書）
柴田悠『子育て支援が日本を救う――政策効果の統計分析』（勁草書房）ISBN:4326654007（社会政策学会の学会賞を受賞。日経新聞・朝日新聞・読売新聞などで書評・インタビューが掲載。）
柴田悠『子育て支援と経済成長』（朝日新聞出版）ISBN:4022737069（朝日新書606。日経新聞・朝日新聞・読売新聞などで書評・インタビューが掲載。）
毎回の配布資料でも参考文献を紹介する。

（関連ＵＲＬ）

https://sites.google.com/site/harukashibata/profile(教員紹介のページ)

[授業外学修（予習・復習）等]

予習は、次回に扱う文献が指定されていれば、それを事前に読んで、「確認テスト」をオンラインで受験しておくこと。文献が指定されていなければ、授業内容と関連する本やニュース記事、ドキュメンタリー番組などをできるだけ通読・視聴しておくこと。
復習は、毎回の授業内容をふりかえり、関連情報を調べたうえで、「小レポート」をオンラインで提出すること。不明点については、講義中かオンラインで教員に質問すること。
毎回の予習・復習の時間配分は、予習120分、復習120分を目安とする。

[その他（オフィスアワー等）]

履修人数をアクティブラーニングに適した人数に制限する。
また毎回、Googleスプレッドシートを用いた意見交換を行うため、Googleスプレッドシートの閲覧

社会学II(3)へ続く↓↓↓

社会学II(3)

・入力がしやすい端末（ノートPC・タブレット等）を毎回持参すること。

[主要授業科目（学部・学科名）]

総合人間学部